科学者委員会学術誌問題検討分科会（第４回）議事録

日　　時：　平成２１年７月３１日（金）１６：００～１９：００
場　　所：　日本学術会議　６－Ｃ（１）会議室
出　席　者：　浅島委員長，玉尾幹事，西郷幹事，大垣委員，鈴村委員，植田委員，田口委員，山本(正)委員，林委員，永井委員，谷藤委員，尾城委員，深澤委員
事　務　局：　渡邉参事官，兼平専門職，鳥生専門職，中島調査員　他

配布資料：

資料１　前回議事要旨（案）

資料２－１　提言/報告書　目次案　第２版
２－２　提言/報告書　１章　骨子案
２－３　提言/報告書　２章　骨子案
２－４　提言/報告書　３章　骨子案

資料 WG１-１　関係諸団体の取組と連携等について【アクセス平等化ＷＧ担当】

資料 WG２-１　学協会連合等に対する説明資料案【国内発行英文誌ＷＧ担当】
WG２-２　JST,NII 等との連携について【国内発行英文誌ＷＧ担当】

資料３　今後の進め方について（案）

参考１ 委員名簿
参考２ 学術誌問題の論点について（第１回分科会資料４）

議事

１．委員の追加について
浅島委員長より，尾城孝一氏（東京大学附属図書館・情報管理課長）を特任連携会員として委員に追加することが認められた旨の報告があった。引き続き，本日初出席の深澤委員，新委員の尾城委員の自己紹介がなされた。

２．前回議事要旨（案）の確認
浅島委員長より，前回議事要旨について確認を求められ，異議なく了承された。

３．報告書骨子案・素案について

浅島委員長より，第２章骨子案について説明が求められた。これに対して，西郷幹事から目次案の第２章部分は改訂前のものであり資料２－３・１ページ目の目次が最新版であるとの訂正がなされた後に，資料２－３と資料 WG１－１を基に概略の説明がなされ，尾城委員から詳細な説明がなされた。

説明について，以下の点に関する質問・回答がなされた。

○コンソーシアムの仕組みの詳細はどのようになっているのか。→　一般に，値上げ率について交渉してコンソーシアムと出版社が合意し，その合意に基づいて各大学・研究機関が再交渉して最終決定される。コンソーシアム間で多少の情報の交換はなされている。契約は，個々の大学・研究機関単位で行われる。コンソーシアムでの交渉は，図書館職員のボランティアによって行われており，交渉のための統計収集・解析，交渉能力に限界がある。

○最大のコンソーシアムはどれか。→　大学・研究機関の数では公立私立大学図書館コンソーシアムが最大であり，総金額では国立大学図書館協会コンソーシアムが最大である。

○研究者が必要とする電子ジャーナルは全て入手できるのか。→　現時点では殆ど入手できるといってよい状態にある。しかし，そのようにできる契約であるパッケージ契約が大きな負担増を生み出しており，これがアクセスの不平等化の大きな要因になっている。

○支払いは誰がするのか。→　各大学・研究機関毎である。

続いて，浅島委員長より，第３章骨子案について説明が求められた。これに対して，資料２－４と資料 WG２－１，資料 WG２－２に基づき，玉尾幹事から概略の説明がなされ，林委員から詳細な説明がなされた。

説明について，以下の点に関する質問・回答がなされた。

○ISPC の規模はどの程度を考えているのか。→　参加する雑誌数によって変わってくる。幾つかの学協会に参加頂いて，モデルとなるジャーナルを発刊することを考えている。

○参加する学協会はあるのか。→　各分野のリーディングジャーナルにはキーパーソンが居られるので，その方々と連携することによって実現可能ではないかと考えている。非公式ではあるが，化学系では前向きな捉え方をして頂いている。物理系では，当面は大丈夫との考えが支配的であるが，長期的な見通しを持っていないので，検討して頂けるのではないかと思う。生物系では，今回のような仕組みに対しての要望が元々有ったので，参加頂けると思う。

○モデルと全体像の関係はどのようになっているのか。→　各学協会のリーディングジャーナルによる試行を行い，徐々に広げていきたい。

○パッケージの大きさをどのように考えているのか。→　今まで一般に行われているパッケージとは異なるビジネスモデルを模索しているところである。

○人材をどのようにして集めるのか。→　まずは，参加する学協会から派遣して頂くことを考えている。その他にも，それぞれのプロフェッショナルが必要であり，今後つめていく。

○SPARC Japan，J-Stage との関係をどのように考えているか。→　両仕

組みには長所と短所がある。両者の長所を取り入れ，編集者サイドに立ったシステムを考えている。また，NII，JSP との連携も当然ながら必要と考えている。

○公的資金によるオープンアクセス化とはどのような仕組みか。→　ISPC を通して刊行される論文の内，例えばトップ１０％を公的資金によってオープンアクセス化する。こうすることによって，引用が増え，クオリティーが上がる。いずれにしても，情報の生産者であり利用者である研究者が共通認識を持ち，日本発のジャーナルを育てる機運を盛り上げることが重要である。

以上の議論を踏まえ，浅島委員長より，本分科会での議論の結果は提言としたいので以下の点を次回までに検討，あるいは実行して頂きたいとの提案があり，了承された。

① 各構想について，さらにブラッシュアップする。
② 文部科学省との連携を進める。
③ JST との連携を進める。
④ NII との連携を進める。
⑤ ISPC に関する説明資料のバージョンアップをする。
⑥ 学協会に参加を打診する。
⑦ 研究者集団参加の方策を考える。

４．今後の進め方について

浅島委員長より，以下の提案があり，了承された。

① サウンディングのために，８月の２部夏季部会，３部夏季部会で構想を説明する。２部担当：浅島委員長，山本(正)委員，永井委員。３部担当：玉尾幹事，植田委員，林委員。
② １０月の総会で中間報告をする。
③ あらゆる機会を捉えて外部にアピールする。

５．今後の予定について

第５回　８月２０日　１５：００−１７：００
第６回　９月１４日　１７：００−１９：００

以上